

令和5年度  
社会福祉法人こころの種福祉会  
つくばトッポンチーノ保育園  
つくばモンテッソーリアフタースクール

事業報告書

理事長三上恵子

<令和5年度の総括「つくばトッポンチーノ保育園」>

令和5年度はついに新型コロナもインフルエンザと同じ5類に分類され、さまざまな対策に変化があった。その他各種感染症の波が途絶えず、保育園にとっては新たな現場サイドでの保育の対策も欠かせないものとなっていった。コロナ以前同様の対策だけでは一人一人の健やかな日々を守ることが難しくなっている。集団活動だからこそ、一人一人の活動を配慮すれば、多くの児の健康を守ることにもつながることを忘れずに対策を続けたい。国の通知やマニュアルだけでは図り知れない、現場でまさに必要な対策を保護者の理解を促しながら協力した健康対策が必要な時代を迎えていることを痛感する。こどもたちの健康維持が大きな課題である中、さらに時代が足早に働き方改革推進の方向性となったことも重要な変遷でありながら課題は山積みとなることが目に見えている事である。福祉施設で国の考える「働き方改革」が容易に対策できることではないが、当園においては創立以来目指してきた人材の活かし方を今こそ重視し、当園の進むべき道を開いて行く所存である。万全のシフトを組みつつ一切の残業、そして持ち帰り仕事の排除をしている。こどもとのノンコンタクトタイムを活かすことでの保育の質の充実を図りたい。

非常に困難な課題を抱える保育園運営ではあるが、「今まではこうだった」という視点はもはや持つべきものではないと感じている。新たな保育、新たな人材の確保（世間の潜在保育士を待つより、当園で縁の下の力持ちで励んでくれている無資格者へのサポートを手厚くし職につきながら「保育士」「子育て支援員」「児童支援員」などの資格取得ができるよう配慮している。コロナ禍が去りつつありながらも保育園には逆風の時代である。「子どもの人権」など非常に重要な問題であるが、中にはクレーマーのように保育の現場の一場面だけを切り取っては「不適切保育」といった言葉によってゆがんだ見方を主張するケースも出ている。そのため保育従事者も常に疑心暗鬼に苛まれるような風潮にも陥りがちである。保育の場面のほんの一こまだけを根拠なく判断し、保育園を指摘するようなメールや自治体への通告など、が起こりやすい時代だからこそ保育は科学的視点で見つめ直し、どんな場面にも根拠があることを職員一同で理解し、考える保育を実践していきたいと切に思う。時に育みの中でやむを得ないケガであっても起きた場合には「ヒヤリハット」で書き起こし、さらにそれらの内容はすぐに職員一同で認識し、二度と起こさないためにはどうするかを判断して行かなければならない。

何事も決して形骸化させてはならず、こうした危険を避けるための先を見た、こどもの発達を捉えた環境の整えにさらに尽力して行きたい。

いかなる時代も保育・教育の課題への取り組みは家庭との連携をもってなされるものであろう。子どもの生活を切り取って「保育園だけ」「家庭だけ」と区切れるものではない。いかなる場合もこどもの育ちを中心として園と家庭での連携、そして相互理解のもとで子どもの発達、心の在り様を捉えていかなければならない。この原点を決して忘れることなく、当保育園は運営され、こどもの幸福感を見守る眼差しを豊かに育む使命があろうかと考えている。

今年度の事業はアフターコロナの挑戦であり、コミュニケーションの方法を多様にし、家族との連携がとれるよう工夫をした。こどもの保育を自分たちも体験したような幸福感を共に感じられるようなイベントを増やし、保護者の子育ての悩みに共感しながら歩んだ一年であった。「心のふれあい」は「体験の共有によるふれあい」であることを実感し、こどもの育みを見守ることができた。とりわけ年度収めの「成長を祝う会」では在園家族それぞれが喜びを手にし、トッポンの在園であることに誇りをお感じ頂けたと自負してやまない。次年度は10周年の節目となるが、長きにわたる日々の継続と向上への希望が今日に繋がってきたことを実感している。このような中で下記において今年度の活動を振り返ることとする。

\* アフターコロナに保育園を利用する保護者への子育て支援を充実する

### ① 在園家庭への保育室開放（モンテしゃべり場）次年度に続く、子育て世帯との深い交流の機会となった。

日々の子どもたちの幸せな一コマを目の当たりにして頂くことで、園生活に興味を深めて頂くとともに、幸福感に満たされた子どもたちの姿を通して幸せの連鎖を生む機会となった。

### ② 保護者対象の子育て相談会の実施

参加者が相互に交流を図れるよう子育て相談の場を取り入れるとともに、発達の支えとなる家庭での遊び方、遊ばせ方など子育てのヒントとなる情報を提供する。

・ Zoom イベントの工夫（当法人評議員藤ノ木様ボランティアご協力による）

家庭にいながらにしてモンテッソーリ教育の概論を理解したり、家庭生活に活かすためのヒントをお伝えした。また季節に応じてこの教育法を取り入れたゲーム遊びなどこどもの発達を理解し、心の絆を育むためのノウハウを楽しく提供している。

### ③ エディブルモンテッソーリを目指した畑体験

畑を耕したその時のみならず、観察時や収穫時にも子どもたちは「自分たちが耕した畑で育った野菜なんだ」という記憶と共に幸福感がわきあがる姿があり所謂「野菜の食わず嫌い」もなくなっていった。

#### ④アグリイベント大盛況（収穫）

日頃子どもたちが大切に育てている野菜（主にじゃがいも）をご家族と収穫

##### ・園で育てている野菜やハーブを在園家庭へ無償提供

ぐんぐん伸びる香り豊かなハーブを適時降園時に保護者にプレゼント

##### ・近隣住民の方や地域のお米屋さんがお届けくださった野菜を在園家庭へ提供

地域の方々からのエールとして手作りの野菜などをお預かりする機会も多く、出来る限り即時給食の食材として活用したり、時には在園家族にお分けしながら、地域、園、そして家族との接続連携の糧となっている。

#### ⑤在園児保護者の珈琲店による園とのコラボブレンドの実現

すっかりお馴染みとなった園の職員が描いた園のイメージキャラクターをラベリング。保育園と保護者はコロナ禍を共に歩む子育ての同志であることを実感させてくれる企画となり、ともに乗り越えようという思いが全ご家庭に芽生える企画となった。

#### ⑥・松屋製麺所との心の交流コラボ企画

##### ラーメンを園で販売代行

日本有数となった筑波山麓にある松屋製麺所様の麺はなかなか手に入りにくいグルメとなっている。このような中継続的イベントとしてその販売を当園で代行することができた。家庭で安心して「食」を楽しむ機会を提供できればという考えのもと、在園児用にオリジナル予約フォームを作成し事前に購入予約を取り、ラーメンの引き渡しを園で行った。

##### ・松屋製麺所所長によるトッポン畑大豆を豆乳ラーメンに調理して下さり給食で提供

・畑の恵みを美味しく調理、さらに収穫した大豆を使って調理提供及び作品作りに活用

⑦・こちらコロナ禍を乗り越え、やっと再開できた企画となりました。日本屈指のピオラニストと地域のピアニストをお招きした演奏会をクリスマスに開催。在園保護者のみならず、地域の皆様にもお楽しみ頂けました。

⑧ 当法人が健康増進のため取り組んでいる R0 水を指導設置している R0 ラボが新事業としての「ドローン」への取り組みを当園家族に無償で披露・体験させてくださいました。どれにとっても初めての体験、新たな視野が広がる素晴らしいイベントとなりました。

#### ・シェイクアウト訓練への参加及び保護者への周知

離れていても心は一つ。家族を思う気持ちは緊急時に何よりの励みとなるに違いないことを訓練を通じて保護者と共に実感しあう機会となった。

#### ・子育てに奮闘する保護者に冬場の黄昏時お迎えの時間帯からイルミネーションを点灯

保護者にとってお迎えは我が子との再会に思わず笑みがこぼれる瞬間であるに違いないが、疲れ果てた帰宅後に待ち受ける怒涛の子育てのひと時を思うと時にはため息をつきたくなる瞬間にもなり得る。そのようなため息を吹き飛ばすべく、我が子とのつかの間の語らいを生む時間と空間をお届けした。

#### ・シューフィット

シューフィッターの（ドイツの国家資格である整形外科靴技術者「シューゲゼレ」）を取得したストウ靴店須藤様による足の測定を実施した。サイズだけでなく足の形や歩行の状態をみて頂き保護者にお知らせしたところ、日頃の靴選びの際に助かっていると喜びの声を頂いている。

#### ・卒園生との交流

卒園生からは季節のお便りが届くことも多い。また、卒園生の兄弟姉妹が引き続き園に在園しているケースも多いので、コロナ禍でも卒園生が当園に関われるようなオンラインイベントなどを取り入れるようにしている。

#### ・地域の外国籍の方から母国料理のレシピを教えてください保護者に園メールで配信

園は社会とつながる窓を開き、世界への扉をも開く場所となり得るという期待感を保護者にお届けできた。

#### ・外国籍子育て家庭に対して

個別に Zoom や面談、メール等で相談に応じる。お便りなどの翻訳や解説支援。

#### ・SNS を活用した情報発信

SNS を利用し、広く情報提供を行う。※SNS の掲載に関しては保護者が許容した個人情報の範囲に応じて発信。

#### ・園生活の写真の無償提供及び一斉メール

手書きの連絡帳とは別に毎日園長からのメッセージを一斉メールにて配信。また、子どもたちの一日の様子を毎日何百枚単位で無料で配信している。我が子の姿だけでなく、園全体の子どもたちの姿を園長からのメッセージや写真を通して毎日発信することで、我が子自身の育ちを柔軟な気持ちで見守るきっかけとなることを願い継続して取り組んでいる。また、園の教育活動や方針への理解を深めることで、見通しのある子育てを保護者と連携して取り組むことができている。また、一斉メールでは季節や伝統行事にちなんだ小話を紹介。

#### ・給食の献立レシピの紹介

子どもたち自身が家庭で給食の味を喜んで家族に話すことも多く、保護者からレシピを知りたいという声も多くあがっていることから、定期的に給食のレシピを一斉メールで配信している。保護者からも喜びのお声を頂いているので、保育園と家庭を「食」を通してつなぐきっかけとなるよう継続していきたい。

#### ・在園家庭希望者へ木工教室開催

家具づくりを開催。登降園時につくりたい家具のイメージをヒヤリングしながらイベントを迎え、家族で家具づくりを体験。

\* 地域のすべての子育て家庭への支援を充実する

#### ・近隣子育て世帯や高齢者への声掛け

当園の近隣には妊娠中の方や子育て世帯の方、高齢の方も多く園舎付近をお散歩しているお姿を多々お見掛けする。一見お元気そうに見えても妊娠中の不調や終わりのない育児の日に心が疲弊してしまうと心のよりどころを失ってしまったり、大人とコミュニケーションを交わす場がほとんどなくなってしまっていることがあり、高齢の方におい

でも孤独な環境に身を置いていらっしやることも想定される。通りすぎるわずかな時間だけではなかなか全面的な支援には至れないかもしれないが、一言でも二言でも声をお掛けするようにすることで、「つながり」を感じていただけるように心掛けています。社会的に閉ざされた環境に身を置きがちになる妊娠期や産後、高齢期に緊急時や災害時など身に迫る危険を感じた際、当園が安心できる場の一つとなれることでお力になれることもあるかもしれないという思いを職員一人ひとりが大切にできるように努めている。当園が地域の皆さまと円満な関係を築くことが在園家庭の皆さまによりよい保育を提供することにも繋がり、地域への貢献は社会福祉施設としての責務と使命でもあるため、今後も継続していきたい。

#### **・地域の中学校に通う生徒たちへの待機場所の無償提供及び挨拶活動**

交通量もある中、中学生が登校時道路の端で待ち合わせていることから、安全確保のため当法人の日中使用しない駐車場を待機場所として提供している。待機場所を提供している生徒以外にも、園舎前を通る中学生に対し毎朝挨拶活動を行っており、万一困るような事態に陥った時にも安心して園を訪ねてもらえるような信頼関係を築けるようにしている。

#### **・近隣小学校の登下校の見守り及び挨拶活動**

遠くから歩いて登校している児童もいることから登校中に体調不良に陥るようなこともあるため、日頃から挨拶活動をすることで児童の様子を見守るとともに、児童が安心して助けを求められるような関係を築くことを目的としている。実際に外気温の影響からの体調不良と思われる児童を一時的に保護し、学校まで引率した経緯もあるため、今後もこの活動を継続できるよう努めたい。

#### **・近隣小学校利用者に対する一時的な駐車スペースの無償提供**

小学校でのイベント時は小学校の駐車場を使用できないことも多く、そのような場合に遠方から歩いてくることにお困りの方がいることを知り、利用者に支障のない時間帯等であれば駐車スペースを無償提供するようにしている。

#### **・近隣住民の方が利用するゴミ捨て場周辺や隣接住宅であるご高齢の方のお宅の除草作業**

園舎周辺は高齢者世帯であるため、熱中症が懸念される夏場は特に除草作業が困難となることから、園長、副園長が休日にボランティアで除草作業を行っている。

### \* 保幼小接続連携活動

- ・ 当園が事務局を務め地域の保育・教育施設と連携をして見学者を受け入れた

### \* 職員の研修

厚労省の定める人件費が発生するキャリアアップによる保育力の向上、子育て支援員資格取得、放課後児童支援員資格取得、茨城県保育協議会研修、同つくばブロック研修などほとんどが動画配信による実践となり、多くの職員を対象として参加を促すことができた。「働き方改革」の中、いかに学んで活かし、意欲に繋げていくかは大きな機会であり向上のための必須課題である。当園は一人一人の長い人生に寄与できるよう足元から先の日々に向けた学びに力を入れさせていただいた。

### \* 職員の確保

非常に厳しい雇用世相の中自ら当法人を探しあて、こども一人一人にスポット充てる当園の保育方針に共感をした新卒学生2名を雇用することができた。

その他看護師など複数名正規職員として雇用契約を交わしたが私事都合でわずか数日で退職という非常に無責任な人物との出会いとなり、改めて現代の雇用の難しさを感じている。

### \* 苦情解決のうち報告すべき事項

- ・ 令和5年度、苦情解決委員（第三者委員）への相談はありませんでした。

### \* 事業報告まとめ

新型コロナがインフルエンザと同様の5類に分類され新たな年度が始まった。各種感染対策は新型コロナによってすっかり身に着いた方法を日常的に反映し、職員と共に負担にならないような実践を継続した。さらに在園家族の協力も欠かせず、皆の理解によってこどもたちの健康が育まれることの喜びと手ごたえを感じた1年であった。

対面集合型での保育園利用者とのやり取りが果たせるようになり、充実した企画も数多く果たせたことが実感としてある。コロナ禍の試練に学んで活かしたZoomによる学びや交流の機会も保護者共々定着し、活用次第でさらなる情報の共有ができ、多くの家族との交流が果たせることになっている。試練から学び、試練を活かし、科学的アプローチによる保育を通して、現場のメッセージをお届けしていきたい。多忙な現代人がいかに子育てを人生の底力とできるか、細やかなアプローチをしつつ新たな時代の豊かな時間をこれからも生み出したい。

昨年度の記録と共に事業報告とさせていただきます。

多くの振り返りを通して、次年度に向けた糧とさせていただきます。

### <令和5年度の総括「つくばモンテッソーリアフタースクール」>

コロナ5類に移行のゴングと共に始まった新たな時代を切り開く感染症対策と共に滑り出した当法人の児童クラブでした。開設以来利用保護者と共に「こどもの今」を理解し、その発達成長の支えとなれるよう職員一同視野を広く持ち、保護者の就労を支えるとともに子どもたちに放課後の居場所として心のゆとりを提供してきた。近隣のいくつかの保育所、保育園から集まってきた1年生を迎え1年生から6年生までの縦割り環境を円滑に生み出しつつ歩んだ1年間でした。

担当職員は高度なスキルが求められ、子どもたちの抱えるさまざまな問題解決の支えとなれるよう研修を継続している。いずれも放課後児童支援員、小中学校教育経験者であり、異年齢縦割りの児童に多岐にわたる活動体験を果たすことができた。利用児童の大半は栄小学校である。また保護者も就労、介護、出産とさまざまな理由で当児童クラブに在籍している。子どもたちは縦割りで遊ぶ楽しみ、畑での栽培と収穫の喜びを四季折々感動と共に体験している。また学習面での取り残しがないう、宿題への取り組み、不足しがちな学習時間や理解の補填など、家庭に疲れて帰った後ではできない取り組みを丁寧実践している。放課後の時間をリラックスしながらも明日への学習意欲につながる生活を心がけている。長期休暇にはできるだけそれぞれが課題を選び「調べ学習」などへの手順が身につくように見守り指導している。生活・学習のリズムを各々の児童が自分に合ったペースを身に着けられるようアドバイスし、実践している。

毎年積み重ねている在園家庭との信頼関係は深まり、学校の長期休暇なども安心して過ごせるかけがえのない場所として当つくばモンテッソーリアフタースクールは成長を遂げていることを誇りに1年間無事に運営できたことに関係者への感謝を深くしている。小学校との連携を良くするような働きかけを続け、子どもたちの日常を豊かに照らす場として存続したい。日々穏やかに過ごしている子どもたちであるが、どの子も決して一年中健やかなわけではない。家族の問題を抱えながら懸命に乗り越えるこどもの姿や、成長とともに、多くの価値観も育ち、学校や家庭などでの多様性の中、揺れ動きながらも課題を解決するために模索する児もいる。どの子も懸命に生きている。心のよりどころを決して失わないよう、日々の姿をよくよく観察し、変化を捉えながら、適切なアプローチを心がけている。社会福祉法人の運営だからこそ対応できる家庭への寄り添いを中心に子ども達と共に歩む場でありたい。健やかな学校生活のため、当アフタースクールはこどもの健康と成長を見守り、長い自立に向かう道のりを共に歩み、心に寄り添い、次年度に向かいたい。